

保護者負担軽減計画について

<京都府提出資料>

学校名	日星高等学校
所在地	舞鶴市上安久381番地
電話番号	0773-75-0452

<p>(1) 建学の精神</p>	<p>トリック精神に基づく全人教育を行う。</p>																																							
<p>(2) 本校の特色及び 将来展望</p>	<p>本校は、普通科総合コース・特進コース、看護科5年課程で構成している。舞鶴市をはじめ京都府中丹・丹後管内の中学校生徒数が減少する中、より魅力のある高校にしなければ、生徒数確保が難しい。そのために、一人ひとりに寄り添った丁寧な学習指導と進路実現のための普通科のグレードアップを図っている。また、看護科5年課程は、近年、看護師国家試験合格100%の目標を達成してきており、近畿一円その他、東海や関東からの入学者がある。引き続き、病院との一層の連携を図るとともに、医療の高度化に対応し、地域医療を担う人材を安定的に供給できる教育機関として充実を図っていく。普通科においては、生徒一人ひとりに対応した丁寧な教育指導を継続するとともに、新指導要領実施に対応した新しい教育課程を展開する。本校は、2022年にユネスコスクール加盟校となつた。地元企業や行政機関と連携し、ESDの理念である「持続可能な社会の担い手」の育成を展開する。部活動では、硬式野球部が着実に実力をつけおり、地域の応援をいただいている。また、リリング部は、府大会で団体優勝・個人も優秀な成績を収め近畿大会・全国大会に出場するなど注目をあびている。また、舞鶴市によるウズベキスタンのホストタウン事業など、行政機関と連携した取り組みも学校の魅力の一つとして、今後の安定的な生徒数確保につなげていきたい。</p>																																							
<p>(3) ・令和5年度納付金</p> <p>※学科やコースによって納付金に差異がある場合は最低額を計上。</p> <p>・今回改定 あり <b>なし</b></p> <p>・前回改定 平成31 年度</p>	<table border="1" data-bbox="760 1074 1900 1472"> <tr> <td rowspan="2">【1年生】</td> <td>入学金</td> <td>施設拡充費 (入学時)</td> <td>授業料</td> <td>施設拡充費等 * (経常的)</td> <td>計 (入学時除く)</td> <td rowspan="2">考査料</td> </tr> <tr> <td>50,000</td> <td>70,000</td> <td>492,000</td> <td>120,000</td> <td>612,000</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">【2年生】</td> <td colspan="2"></td> <td>授業料</td> <td>施設拡充費等 * (経常的)</td> <td>計</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>492,000</td> <td>120,000</td> <td>612,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">【3年生】</td> <td colspan="2"></td> <td>授業料</td> <td>施設拡充費等 * (経常的)</td> <td>計</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>492,000</td> <td>120,000</td> <td>612,000</td> <td></td> </tr> </table> <p>*施設拡充費等には、施設拡充費、校費、実験実習費、冷暖房費等の入学金、授業料及び検定料以外の納付金で、学則に定めのあるものすべてを含む。ただし、PTA、生徒会等、学校法人とは別団体に属する経費、任意寄附金及び給食費は除外。</p>	【1年生】	入学金	施設拡充費 (入学時)	授業料	施設拡充費等 * (経常的)	計 (入学時除く)	考査料	50,000	70,000	492,000	120,000	612,000	15,000	【2年生】			授業料	施設拡充費等 * (経常的)	計				492,000	120,000	612,000		【3年生】			授業料	施設拡充費等 * (経常的)	計				492,000	120,000	612,000	
【1年生】	入学金		施設拡充費 (入学時)	授業料	施設拡充費等 * (経常的)	計 (入学時除く)	考査料																																	
	50,000	70,000	492,000	120,000	612,000	15,000																																		
【2年生】			授業料	施設拡充費等 * (経常的)	計																																			
			492,000	120,000	612,000																																			
【3年生】			授業料	施設拡充費等 * (経常的)	計																																			
			492,000	120,000	612,000																																			
<p>・今後の納付金に対する考え方</p>	<p>舞鶴市をはじめ通学圏内中学校生徒の急減や公立授業料の不徴収など私立高校にとって生徒数の確保が大変難しく、財政的に厳しい状況下ではあるが、安心して学べる教室づくりや、地域を巻き込んだ特色ある教育の展開、個々の学力や進路希望に対応した教育内容、クラブの活性化等など、学校の魅力アップや生徒の満足度を向上させることにより生徒確保を行い、経営安定を図ることにより、納付金額の据え置きに努力する。しかし一方で、生徒数の著しい減少による収入減や、近年の物価やエネルギーの急騰による支出増が顕著に現れており、今後の動向によっては納付金の改定について検討をする必要性が出来る可能性も否定できない状況である。</p>																																							
<p>(4) 教育内容、施設整備の 改善・拡充等の状況</p>	<p><b>教育内容</b> 総合コースは、入学生徒の学力幅が非常に大きい。英語・数学の習熟度別授業やICTを活用したアダプティブラーニングに取り組んでいる。「教科横断型授業」により、「学ぶ意味」や「学ぶ楽しさ」に触れ、「総合的な探究の時間」で地域連携や課題研究を行っている。また、大学進学に対応し、一つ上の大学に進学できるよう放課後の活用や個別指導により成果を上げている。又、学び直しを必要とする生徒も多いため「学習支援センター」を設置し、基礎学力の定着や進路を切り開く力をつける指導を充実させている。特進コースは、難関大学進学のために指導スタッフの充実と海外留学を推奨し、毎年数名が半年・1年の留学に出てグローバルな視野を獲得し、大学進学につなげている。看護科は、教員が積極的に研修を行い「協同学習」や「ICTの活用」により主体的に学ぶ生徒の育成を目指している。「学習室」を整備し、国家試験に向けての学習や協同学習の場としている。</p> <p><b>施設設備の改善・拡充等</b> 28年度は看護科及び東校舎のICT環境整備(WiFi設置、ICT機器の整備)、29年度は本館のWiFi化やプロジェクターの全教室設置が完了した。AI時代を見据え、1年生よりiPadを持ち、北部屈指のIT環境を活用し、分かる授業や反転授業につなげている。また、現校舎等の施設の老朽化が進んでいることから、LEDの導入など環境への配慮も視野に入れた整備を計画的に進めていく。</p>																																							
<p>(5) 令和5年度の保護者 負担軽減策及び考え方</p>	<p>京都府の「私立高等学校あんしん修学支援事業」を活用している家庭は、全校生徒の約70%を占めており、保護者の負担軽減に大きく寄与している。少子化・公立志向の中で、看護科を筆頭に生徒数の一定確保につながっている。加えて、下記の学校独自の奨学制度等により、保護者の負担軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特待生 (S特待、A特待、B特待)</li> <li>・スポーツ奨学生 (スポーツS、スポーツA)</li> <li>・ヨゼフ奨学生</li> <li>・日星奨学生</li> </ul>																																							
<p>(6) 今後5年程度の保護者 負担軽減計画</p>	<p>少子化の伸展による生徒数の減少や物価急騰など、学校経営的には大変厳しい状況下であるが、新型コロナウイルス感染症等により弊害した地域経済が回復途上、また、当面は実質賃金の減少が続くと予想される中、現状では直ちに納付金の値上げなど保護者負担を増やせる状況にはない。京都府の「あんしん修学支援制度」に併せて国の支援制度を周知し、私学でも安心して学べることを伝えていきたい。また、ICT活用による用紙等の経費削減、学年諸費の見直しを図り、学費以外の経費抑制に努め、保護者負担軽減を進めていきたい。なお、今後の経営基盤や社会情勢等により納付金の改定が必要となった場合は、改定幅を抑えるよう努力していきます。</p>																																							